

目指すべき栃木県立図書館の姿

～とらぎの“知”の拠点としての更なる飛躍のために～

平成24年1月20日

栃木県立図書館あり方検討委員会

【目次】

1	はじめに	1
2	県立図書館を取り巻く状況と課題	2
3	県立図書館の果たすべき役割	3
4	県立図書館の目指すべき姿	4
5	望ましい施設のあり方	8
6	求められる組織及び職員像	8
7	おわりに	9

【資料編】

1 設置要綱等

①	栃木県立図書館あり方検討委員会設置要綱	13
②	委員名簿	14
③	栃木県立図書館あり方検討委員会検討経過	15

2 検討委員会で使用した主な資料

①	県立図書館の概要について	19～25
②	県内の市町村立図書館の設置状況（参考）	26
③	県内の市町村立図書館等の概要（参考）	27
④	全国の都道府県立図書館の概要（参考）	28
⑤	県立図書館特有の役割・機能	29
⑥	県立図書館への期待	30
⑦	市町立図書館との共通業務での相違点	31～32

1 はじめに

近年、グローバル化や高度情報化の進展など社会構造が大きく変化する中、図書館が果たすべき役割として、従来の貸し出し・閲覧といった基本的なものにとどまらず、人々が自己実現を図り、豊かな人生を送るために必要とする情報を的確に提供するなど幅広い支援が求められている。

県立図書館においては、市町立図書館の整備の進展とともに、その役割・機能の一部が重複してきており、今後の方向性を明確にすることが求められている。

このような図書館を取り巻く環境の変化を踏まえ、県立図書館の今後のあり方を検討するため、平成23年1月19日に「栃木県立図書館あり方検討委員会（以下「本委員会」という。）」が設置された。

本委員会では、平成23年3月から5回の会議を開催し、県立図書館のあり方全般についての議論を重ねてきた。この中で、改めて、県立図書館の必要性を確認するとともに、県民から信頼され、「とちぎの“知”の拠点」となる新たな県立図書館像を明らかにし、その結果を報告書としてとりまとめたものである。

なお、足利市にも県立足利図書館が設置されているが、本委員会では宇都宮市にある県立図書館についてのみ、検討の対象としている。

2 県立図書館を取り巻く状況と課題

県立図書館は、明治43年に宇都宮市に開設された二宮文庫を母体に、栃木県教育会図書館を経て、昭和21年に栃木県立図書館として開館した。現在地には、昭和46年5月に新図書館として建設され、40年が経過している。また、昭和55年には県立足利図書館が設置された。

昭和46年当時、市町村立図書館があるのは県内6市町のみであったが、その後、市町村による図書館の設置が進み、現在は、21市町に48館（H23.10.1現在）が設置され、未設置市町は5市町となっている。これらの5市町にも公民館図書室等が設置されており、基本的に一般図書の閲覧等の図書館サービスは県内全域で受けられる状況となっている。

一方、家庭や携帯端末におけるインターネットの普及により、日常的な疑問等に対する答えを気軽に調べることができる環境が整ってきているため、県立図書館には、複雑な課題解決の相談等が持ち込まれる状況が生じ、より多様化・高度化したレファレンス等への対応が求められている。

さらに、情報を記録する手段が紙媒体から電子媒体へと大きく変容する中で図書情報のデジタル化が進んでおり、一部の図書館では電子書籍の提供サービスを開始するなど、本をめぐる新たな動きも生じている。

また、県立図書館は、市町村立図書館の整備・充実に加え、その立地条件や施設面の制約等もあり、一般図書の貸し出しなどの利用が低迷していることから、市町村立図書館との役割・機能をどう分担していくのか、新たな環境変化に対応して、どのような図書館サービスを展開し、県民に支持される図書館を目指していくのかといった課題を改めて整理し、そのあり方を明確にしていくことが求められている。

3 県立図書館の果たすべき役割

【図書館共通の基本的役割】

- ◆図書館は、住民の知的欲求、生涯学習といったニーズに応えるための社会的資本であり、誰もが無料で利用できる施設である（知のインフラ）。
- ◆図書館は、利用者の求めに応じて、過去から現在に至る幅広い資料や情報を提供し、利用者自らの探究活動をレファレンス等で支援することによって、豊かな知の獲得に道を開く場である（知の獲得）。
- ◆図書館は、利用者が獲得した「知」を活かしながら、自ら道を開き、個として自立し、適切な自己判断ができるよう、知的自立を支援する場である（知による自立支援）。

【県立図書館固有の役割】

県立図書館には、上記の基本的な役割の外、広域自治体の知のインフラとして、これまでに蓄積してきた知の財産・資源を十分に活用しながら、県民の自立支援を図るとともに、本県の実状を踏まえて、県内全域の図書館サービスの向上に向けた市町立図書館等の支援・補完や連絡調整といった、独自の役割を果たしていくことが求められている。

具体的には、市町立図書館等とネットワークを結び、図書資料の相互貸借を行うための蔵書検索システムである栃木県図書館総合目録システム等の運用や協力車巡回業務、県内全域の地域資料の網羅的な収集・保存などの中核的な役割・機能の強化である。

県立図書館が所有する約67万冊の蔵書の中には、足尾銅山関連資料である「田中正造翁書請願草稿」や本県出身で川柳界の大家である前田雀郎のコレクション2,500点など、全国的にもここにしかない貴重な資料が含まれており、さらには、ジャズやクラシックを中心とする希少価値の高いレコードについても全国有数の規模となる約4万点を有している。こうした所蔵資料を県民の知の財産として、より広く利用できる環境整備を図っていく必要がある。

4 県立図書館の目指すべき姿

県民の期待に応えることができる新たな県立図書館として一層の飛躍を遂げるため、次に掲げる基本理念や運営の基本方針に基づき、3つの変革の柱を設けるものとする。

【基本理念】

県立図書館は、過去から引き継がれてきた“知”との出会いと、新たに未来へと引き継がれていく“知”の創造の場であり、人と情報、人と人をつなぎ、とちぎの人づくり、地域づくりを支える“知”の拠点である。

【運営の基本方針】

県立図書館は、県民と県民を結び、県民と日本、県民と世界をつなぐ県民のための図書館として、高い専門性を有する司書と豊かな蔵書を基盤としつつ、本県の文化や歴史に関わる資料を広範囲に収集・保存・活用し、時代の流れに即した新たな図書館サービスを提供する。また、市町立図書館等への支援・補完を通して県全体の図書館サービスの向上に努め、知の基盤づくりや未来の栃木を担う人づくりに貢献することで、県民文化の発展や地域の振興に寄与する。

なお、市町立図書館の整備進展、地方分権時代における広域・基礎自治体の役割分担を踏まえ、今後の県立図書館のあり方としては、ベストセラーなど一般的な蔵書や日常的なレファレンスは身近な市町立図書館が、より専門的な蔵書・レファレンスは県立図書館が担うなど、その役割分担の一層の明確化を図るものとする。

柱1 「“とちぎ”のことなら何でもわかる図書館」へ

～知の財産を守り育み、発信します～

これまでも栃木県に関する地域資料の網羅的な収集と保存を行ってきており、県立図書館には歴史的、文化的な価値を持つ貴重な資料が集積されている。今後は、インターネット上の地域情報に関しても体系的に整理し、「栃木県に関わる情報の総合窓口」として、地域資料・情報の利活用を図るため、積極的な情報発信に努め、「“とちぎ”のことなら何でもわかる図書館」を目指していく。

【具体的には】

- ・ 栃木県の歴史、文化、産業、文学、慣習等にゆかりの深い資料を網羅的に収集する。
- ・ 文書館や博物館等に保存されている「とちぎ」に関する資料についても、連携・協力体制を整備することにより、県民や栃木県について知りたい人への利便性の向上を図る。
- ・ 個人の手元や企業に眠る（所有する）「とちぎ」に関する資料を発掘し、寄贈やデジタル化への対応依頼等を行い、県域に関する地域資料の充実を図る。
- ・ 栃木県に関するあらゆる資料・情報の提供を行う「“とちぎ”まるわかりデータベース」（仮称）などのサービスをウェブ上に構築し、“とちぎ”（県）を情報発信する。

柱2 「県内図書館をリードする中核的図書館」へ

～利用者の立場を重視した効果的な運用を図ります～

一つの図書館ですべてのサービスを提供するには限界がある。そのため県立図書館は、整備が進展した市町立図書館との役割分担をしながら、図書館と図書館をつなぎ、人と情報をつなぐ中核的図書館として図書館ネットワークを強

化し、利用者の立場を重視した「県内図書館全体で一つの図書館」の構築を図るとともに、社会情勢や県民ニーズなどの変化に対応した新たな図書館サービスを提供するなど、「**県内図書館をリードする中核的図書館**」を目指していく。

【具体的には】

- ・ 障害者や高齢者等、多様な利用者の利便性向上を図るため、相互貸借体制のあり方や「栃木県図書館総合目録システム」の新たな機能について検討する。
- ・ 市町立図書館に対するレファレンス支援の充実を図るとともに、市町立図書館職員や学校図書館司書等を対象とした資質向上のための研修の充実を図る。
- ・ 県内図書館資料の所蔵状況を把握し、図書館資料の有効な配置や利用方法等を検討するとともに、市町立図書館で廃棄する図書館資料のうち保存価値の高いものは、県立図書館で受け入れるなど、図書館資料の保存に関する新たな仕組みを導入する。
- ・ 県内の貴重な資料等を未来に継承していくため、必要な収蔵スペースを確保し、所蔵資料を永年保存する。
- ・ 県立図書館所蔵の貴重書と併せ、市町立図書館所蔵の貴重書のバックアップ支援のため、デジタル化を計画的に推進し、データの共有化、アーカイブ化を図る。
- ・ 子どもの読書活動の推進に係る子どもや親子対象の様々な取組は、子どもたちにとって身近な存在の市町立図書館での対応を基本とし、県立図書館は、読書活動推進センター機能として、指導者の養成や学校図書館等関係機関とのネットワークを強化する。さらに、新たな手法の開発につながる先進的な事業や、県全体への普及を目的とする事業などへの重点的な対応を図る。
- ・ 県立図書館の職員が市町立図書館を訪問することにより、その図書館の現状やその地域の状況を的確に把握した上で、きめ細かな支援を図る。
- ・ 時代や県民ニーズの変化に関する調査分析に基づいた新しいサービスを提供し、その提供方法を市町立図書館へも還元するなど県内図書館サービスの向上を図る。

柱 3 「県民の課題解決のための図書館」へ

～知の財産を利活用し、県民の知の向上を図ります～

県立図書館の知の財産を活かし、市町立図書館では対応が難しいより専門的課題に対応したレファレンスサービスを実施する。なお、実施に当たっては、直接来館者のみならず、家庭に居ながらの活用など、利便性に配慮した、県民の役に立つ「**県民の課題解決のための図書館**」を目指していく。

【具体的には】

- ・ 一般的なベストセラー、実用書、雑誌等の資料の収集は市町立図書館に委ね、県立図書館はより専門的で資料価値の高い資料の収集に特化する。
- ・ 県内大学図書館や国会図書館、他都道府県立図書館などとの連携協力体制を充実し、専門的な資料や情報の提供を行う。
- ・ その時々为社会情勢等に応じたテーマを定め、図書館資料の企画展示やインターネットによる情報提供を積極的に行い、県民の課題解決支援を図る。
- ・ 蔵書内容に対応した、より専門的なレファレンスサービスを行うため、司書の資質向上に努める。
- ・ インターネットを活用することにより、時間や場所を選ばずレファレンスを受けられるウェブ上の相談システムの充実を図る。
- ・ 県立図書館はより専門的な調査研究が行えるスペースを提供するとともに、県民の知的探究心に応え、学びを深める交流拠点としての機能を充実させる。

5 望ましい施設のあり方

上記3つの変革の柱に基づいて、更に県民の期待に応えることができる図書館を目指すためにも、望ましい施設のあり方として、次の点を考慮すべきである。

- ・公共交通機関での利便性の向上や駐車場の確保等（アクセス性の向上）
- ・障害者・高齢者等多様な利用者への配慮（バリアフリー対策等）
- ・文書館、博物館、美術館などの文化施設と調和のとれたまちづくりなど、知の拠点として、ふさわしい環境や立地の確保（「知の回廊」又は「知」や「文化」を集積した空間の創出）
- ・貴重蔵書等を確実に未来に引き継ぐことができる、災害に強いハード・ソフト両面での保管機能の強化（強固な保管庫で資料を保存するとともに、資料のデジタルデータ化による分散した保存など）
- ・蔵書のデジタル化など電子化の進展への対応
- ・省資源・省エネルギーを積極的に取り込んだ地球環境への配慮
- ・図書館資料の効率的な閲覧機能の確保

6 求められる組織及び職員像

県民に一層支持される新たな県立図書館として飛躍する上では、組織及び職員についても次のような変革が求められる。

【組織像】

- ・図書館の基本理念・基本方針を共有し、各々の役割を積極的に果たしていく組織
- ・職員の資質向上を積極的に行うなど、前向きな意欲のある組織
- ・図書館協議会の意見を取り入れながら、環境変化に対応した自己改革する組織

【職員像】

- ・社会情勢の変化や県民ニーズを的確に捉え、常に自己改革ができる職員
- ・一丸となって、県立図書館の目指すべき姿の実現に積極的に取り組む職員
- ・情報通信技術（ICT）の進展に対応できる職員
- ・幅広い教養を持ち、専門分野に精通した職員
- ・図書館をマネジメントできる職員

7 おわりに

今回、「目指すべき栃木県立図書館の姿」として、本報告書において基本理念や運営の基本方針を基に3つの改革の柱を提言したが、その実行に当たっては市町立図書館等との関係性が重要であることから、緊密な連携を確保し、十分な調整や協議を行いながら、現在の施設や組織でも対応可能なものから随時、実現されることを望むものである。

また、本報告書の提言内容を十分に考慮し、社会情勢や財政状況等を踏まえた上で、望ましい施設のあり方が実現されることを期待する。

なお、今後、一層県民から親しまれ、信頼される県立図書館となるために、図書館の様々な活動に県民がサポーター（ボランティア）として参加できるような仕組みづくりを検討し、県民の積極的な参加による運営を図られたい。

最後に、県立図書館が「とちぎの“知”の拠点」として、今後もますます発展していくことを期待して報告書のまとめとする。

【資料編】

1 設置要綱等

栃木県立図書館あり方検討委員会設置要綱

(趣旨)

- 第1条** 情報化の著しい進展や県民一人ひとりの生涯学習意欲の高まりなど、栃木県立図書館（以下「県立図書館」という。）を取り巻く環境の変化を踏まえ、県立図書館の今後のあり方を検討するため、栃木県立図書館あり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
- 2 委員会は、県立図書館の現状を評価し、今後果たすべき役割・機能など県立図書館の今後のあり方について検討し、その結果を知事に報告する。

(組織)

- 第2条** 委員会は、委員16名以内で組織する。

(委員)

- 第3条** 委員は、次の各号に掲げる者のうちから知事が委嘱する。
- (1) 県議会議員
 - (2) 学識経験を有する者
 - (3) 市町村代表者
 - (4) 公募による委員
- 2 委員の任期は、平成24年3月31日までとする。

(会長)

- 第4条** 委員会に会長を置き、委員の互選により、これを定める。
- 2 会長は会務を総理し、委員会を代表する。会長に事故あるとき又は欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

- 第5条** 委員会は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。
- 2 委員会は、必要があると認めるときは、議事に関係する者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

- 第6条** 委員会の庶務は、教育委員会事務局生涯学習課において処理する。

(委任)

- 第7条** この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成23年1月19日から施行し、平成24年3月31日をもって、その効力を失う。

栃木県立図書館あり方検討委員会委員名簿

番号	氏 名	役 職 名 等
1	安 藤 哲	宇都宮短期大学教授
2	遠 藤 忠	宇都宮大学教育学部教授
3	岡 田 久仁子	栃木県高等学校教育研究会図書館部会
4	北 村 光 弘	栃木県商工会議所連合会
5	小 林 静 子	公募委員
6	鈴 木 勇 二	栃木障がいフォーラム
7	高 橋 克 法	高根沢町長
8	高 橋 秀 明	東日本電信電話株式会社栃木支店
9	津久井 富 雄	大田原市長
1 0	螺 良 昭 人	県議会議員
1 1	寺 山 厚 子	栃木県地域婦人連絡協議会
1 2	徳 田 迪 夫	公募委員
1 3	栃 木 政 章	栃木県青少年団体連絡協議会
1 4	中 村 祐 司	宇都宮大学国際学部教授
1 5	橋 立 達 夫	作新学院大学経営学部教授
1 6	早 川 尚 秀	県議会議員

(五十音順・敬称略)

栃木県立図書館あり方検討委員会検討経過

委員会	開催月日	主な検討項目	場所
第1回委員会	平成23年3月11日(金)	○会議の進め方等について ○県立図書館の概要について ○県立図書館の現状と課題について (意見交換)	県庁会議室
第2回委員会	平成23年7月6日(水)	○群馬県立図書館視察 ○県立図書館の必要性について	群馬県立図書館 県公館会議室
第3回委員会	平成23年8月8日(月)	○栃木県立図書館の理念及び運営の 基本方針について ○県立図書館の今後果たすべき役割・ 機能について	県庁会議室
第4回委員会	平成23年9月12日(月)	○「栃木県立図書館のあり方について」 報告書素案について	県公館会議室
第5回委員会	平成23年12月19日(月)	○「栃木県立図書館のあり方について」 報告書案について	県公館会議室

2 検討委員会で使用した主な資料

県立図書館の概要について

1 沿革

昭和21年11月	栃木県立図書館開館（教育会館内）
24年2月	館外貸出開始
25年7月	移動図書館による貸出開始
46年5月	現在地にて県立図書館開館
55年5月	図書館協力車運行開始
平成12年3月	移動図書館廃止
17年2月	「栃木県図書館総合目録」システム運用開始

2 施設の概要

敷地面積	4,785.62㎡
規模	地下1階地上5階 鉄筋コンクリート造
建築年月日	昭和46年3月6日
延面積	本館 5,319.62㎡

3 運営方針

【基本方針】

県内公共図書館の中核図書館として市町立図書館等の活動を積極的に支援するとともに、関連施設等との連携・協力を図りながら、レファレンスサービス等の充実、図書館情報の発信など時代に即応したサービスの向上に努める。

【重点施策】

1 市町立図書館等の活動支援

- (1) 横断検索システム（栃木県図書館総合目録システム）の円滑な運用
- (2) 資料相互貸借等協力業務
- (3) 市町立図書館職員等対象の研修

2 図書館サービスの向上

- (1) 蔵書検索や貸出予約、横断検索システム等による図書館サービスの向上
- (2) レファレンスサービスの充実と地域情報などの図書館情報の発信
- (3) 読書ボランティアの養成
- (4) 県内の大学図書館等との相互協力の推進
- (5) 職場研修等の充実

3 資料の整備・充実

- (1) 地域資料の収集、整理
- (2) 市町立図書館等の要請に応じた図書館資料の購入

4 県立図書館の活動状況

(1) 市町立図書館等の活動支援

① 横断検索システム（栃木県図書館総合目録システム）の運用

「栃木県図書館総合目録システム」は、インターネットを用いて県内のどこからでも県立図書館と県内市町村立図書館・公民館図書室の所蔵データを一括して検索できるものである。平成17年2月に運用を開始し、現在、県内すべての公立図書館と図書館未設置市町の公民館図書室の47館がデータを提供しており、インターネットによる資料検索件数は、毎年10数%増加している。

【データ提供館】 47館 （平成22年4月1日現在）

1	栃木県立図書館	17	日光市立日光図書館	33	下野市石橋図書館
2	栃木県立足利図書館	18	日光市立今市図書館	34	下野市南河内図書館
3	宇都宮市立図書館	19	日光市立藤原図書館	35	下野市国分寺図書館
4	宇都宮市立東図書館	20	小山市立中央図書館	36	上三川町立図書館
5	宇都宮市立上河内図書館	21	小山市立中央図書館小山分館	37	市貝町立図書館
6	宇都宮市立河内図書館	22	真岡市立図書館	38	芳賀町立図書館
7	栃木市栃木図書館	23	大田原市立大田原図書館	39	壬生町立図書館
8	栃木市大平図書館	24	大田原市立黒羽図書館	40	野木町立図書館
9	栃木市藤岡図書館	25	矢板市立図書館	41	高根沢町立図書館
10	栃木市都賀図書館	26	那須塩原市西那須野図書館	42	高根沢町立図書館仁井田分館
11	佐野市立図書館	27	那須塩原市黒磯図書館	43	高根沢町立図書館上高根沢分館
12	佐野市立田沼図書館	28	那須塩原市塩原図書館	44	那須町立図書館
13	佐野市立葛生図書館	29	さくら市氏家図書館	45	那珂川町馬頭図書館
14	鹿沼市立図書館	30	さくら市喜連川図書館	46	那珂川町小川図書館
15	鹿沼市立図書館東分館	31	那須烏山市立南那須図書館	47	西方町中央公民館
16	鹿沼市立図書館栗野館	32	那須烏山市立烏山図書館		

② 資料相互貸借等協力業務（協力車巡回業務）

県立図書館と市町立図書館・公民館図書室間における図書館資料の相互貸借をはじめとする相互協力業務を行い、県民のニーズに応えるサービスを展開している。

昭和55年に運行を開始した協力車は、現在、県内全域を5コースに分けて延べ40館の図書館と公民館図書室を巡回し、延べ63館分の集配業務を行っている。（全市町が参加）

この協力車による相互貸借資料数は、毎年10%前後増加している。

【平成２２年度栃木県立図書館協力車巡回コース】

コース名	No.	巡 回 先	併せて集配する図書館名
県 北 コース (毎週火 日巡回)	1	那須塩原市西那須野図書館	那須塩原市黒磯図書館 那須塩原市塩原図書館
	2	大田原市立大田原図書館	大田原市立黒羽図書館
	3	那須町立図書館	
	4	那珂川町馬頭図書館	那珂川町小川図書館
	5	那須烏山市立南那須図書館	那須烏山市立烏山図書館
	6	高根沢町図書館	
	7	宇都宮市立図書館	宇都宮市立上河内図書館 宇都宮市立河内図書館
県 南 コース (毎週水 日巡回)	8	下野市立石橋図書館	下野市立南河内図書館 下野市立国分寺図書館
	9	壬生町立図書館	
	10	栃木市栃木図書館	
	11	小山市立中央図書館	
	12	野木町立図書館	
	13	栃木市藤岡図書館	
	14	佐野市立図書館	佐野市立田沼図書館 佐野市立葛生図書館
	15	栃木県立足利図書館	
県 西 コース (毎週木 曜日巡回)	16	鹿沼市立図書館	鹿沼市立図書館栗野館
	17	日光市立今市図書館	日光市立日光図書館 日光市立藤原図書館
	18	塩谷町公民館	
	19	矢板市立図書館	
	20	那須塩原市西那須野図書館	那須塩原市黒磯図書館 那須塩原市塩原図書館
	21	大田原市立大田原図書館	大田原市立黒羽図書館
	22	さくら市氏家図書館	さくら市喜連川図書館
	23	高根沢町図書館	
県 東 コース (毎週金 曜日巡回)	24	小山市立中央図書館	
	25	上三川町立図書館	
	26	真岡市立図書館	
	27	益子町中央公民館	
	28	茂木町公民館	
	29	市貝町立図書館	
	30	芳賀町図書館	
	31	宇都宮市立東図書館	
安 足 コース (毎週土 曜日巡回)	32	鹿沼市立図書館	鹿沼市立図書館栗野館
	33	西方町中央公民館	
	34	栃木市都賀図書館	
	35	栃木市栃木図書館	
	36	栃木市大平図書館	
	37	岩舟町中央公民館	
	38	佐野市立図書館	佐野市立田沼図書館 佐野市立葛生図書館
	39	栃木県立足利図書館	
	40	宇都宮市立図書館	宇都宮市立上河内図書館 宇都宮市立河内図書館

※ 網掛けは週２回巡回する図書館

③ 市町立図書館職員等研修

県内全体の図書館サービスの維持・向上を図るため、県立図書館が主体となって栃木県公共図書館協会を設置し、市町立図書館職員や公民館図書室職員等を対象とした各種研修会を実施している。各研修ごとに20～40人の市町職員が受講している。

【平成21年度 各種研修会実績】

研 修 名	開催日	受講者数	備 考
図書館・公民館図書室職員基礎研修	5/27	23人	栃木県公共図書館協会主催
情報化基礎研修会	6/24	25	〃
レファレンス基礎研修会	5/8	18	〃
協力ネットワーク研修会	11/18	27	〃
レファレンス研修会	2/10	20	〃
読書グループ大会	11/5	20	県立図書館・県読書推進運動協議会共催
児童サービス研修会	1/20	20	県立図書館・栃木県公共図書館協会共催
子どもの読書ボランティア指導者養成講座	9/11～ 11/27	38	〃 (全6回)
子どもの読書ボランティア指導者フォローアップ研修会	12/3	46	〃

(2) 図書館サービスの向上

① 図書資料の館外貸出（収集・提供）等

現在の県立図書館が整備された昭和46年当時は、市町村立図書館は少なかったことから、新刊図書や雑誌、視聴覚資料等を提供するとともに、移動図書館の運行(H12まで)や市町村立図書館等への図書の一括貸出などを行い、県内の図書館サービスの向上に努めてきた。

② レファレンス（調査相談）業務

平成21年度の調査相談件数は5,489件、1日当たり約20件の相談を受け付けている。内容は、資料の所蔵や所在、発行元に関する相談など多岐にわたっている。また、本県の県立図書館が全国協同データベースに登録した事例は、北関東3県の中で最も多く参照されている。

(H21年度16,000件)

【県立図書館利用状況】

区 分			17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
貸 出 総数	個 人 貸出	貸出図書総点数	57,372	58,195	57,848	60,217	63,363
		貸 出 A V 点 数	16,490	16,357	15,910	14,238	14,203
		計	73,862	74,552	73,758	74,455	77,566
	協 力 貸 出 数		8,931	8,981	10,362	10,865	12,002
	一 括 貸 出 数		841	590	0	0	0
	総 合 計		83,634	84,123	84,120	85,230	89,568
入 館 者 数			56,724	54,299	53,761	54,609	61,252
貸 出 利 用 人 数			22,890	23,527	23,292	23,357	24,540
レ フ ァ レ ン ス 件 数			9,783	5,903	5,377	5,340	5,489
インターネット資料検索件数			185,472	190,922	237,378	274,845	313,060
開 館 日 数			280	281	285	285	287
図 書 館 相 互 貸 借 数			28,982	28,791	34,621	38,264	41,765

③ 大学図書館等との相互協力

平成13年4月から、県民の多様なニーズに応えるため、県内の公共図書館と大学図書館が相互に協力し資料の有効活用を図るため、現在、栃木県公共図書館協会と14大学等との間で相互協力に関する協定を締結している。

【公共図書館と大学図書館等との相互協力協定状況】

(H22.8.1現在)

No.	大学図書館等名	貸出期間	利用期間	個人貸出の可否	蔵書検索
1	宇都宮大学	1月	2週間	可	可
2	自治医科大学	2週間	1週間	可（館内閲覧のみ可）	可
3	佐野短期大学	1月	2週間	可（館内閲覧のみ可）	可
4	獨協医科大学	2週間	1週間	可（館内閲覧のみ可）	可
5	宇都宮短期大学	1月	2週間	可	可
6	足利工業大学	1月	2週間	可（館内閲覧のみ可）	トップページから可
7	作新学院大学・作新学院女子短期大学部	1月	2週間	可（館内閲覧のみ可）	可
8	白鷗大学	1月	2週間	可（館内閲覧のみ可）	可
9	文星芸術大学・宇都宮文星短期大学	1月	2週間	可	可
10	栃木県総合教育センター	1月	2週間	可	可
11	(財)とちぎ男女共同参画財団	1月	2週間	可	可
12	国際医療福祉大学	複写サービスのみ（大学からの図書の借受けは不可）			可
13	小山工業高等専門学校図書情報センター	1月	2週間	可	可
14	足利短期大学	1月	2週間	可（館内閲覧のみ可）	可

※ 貸付期間は図書館間の期間

④ その他の来館者サービス等

来館者へのサービス向上のため、次のような事業も併せて実施している。

ア クラシック・ライヴ・コンサート

本県在住者や本県出身の演奏家によるコンサート。

年間9回程度開催し、1回あたり約100人の県民が参加している。

イ 子どもの本のつどい

本や図書館に親しみを持つように幼児や小学生を対象とした、図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせや紙芝居などを実施。

毎月第2・第4土曜日、年間24回、午後2時30分から児童図書室で行っており、年間で約120人の県民が参加している。

ウ 資料展示コーナー

館所蔵の資料の中から、さまざまなテーマに沿った本などを展示・紹介している。

1回あたりの展示期間は約2ヶ月とし、年間5回程度の開催している。

エ 図書館活用講座

子どもたちが自ら進んで読書に親しむことのできる環境整備の一つとして、親子で学ぶ図書館活用講座を開催している。

(3) 資料の整備・充実

市町村立図書館や公民館図書室等と連携協力して適切な役割分担のもと、各種資料の収集に努めている。

【図書資料】

(単位：冊)

区 分	一 般 用	児 童 用	館 外 用	計
現在所蔵数	491,795	51,916	127,202	670,913

【視聴覚資料】

(単位：点・本・冊)

区 分	C D	レ コ ー ド	D V D	ビ デ オ テ ー プ	電 子 出 版 物	音 楽 テ ー プ	楽 譜	マイクロフイルム
現在所蔵数	8,200	39,528	138	989	646	505	1,859	6,722

5 県立図書館を取り巻く状況

(1) 市町村立図書館の整備の進展

現在の県立図書館が整備された昭和46年当時は、市町村立図書館は県内5市町（栃木市、佐野市、鹿沼市、葛生町、烏山町）のみであった。

その後、市町による図書館設置が進み、現在では、21市町に47館が設置され、未設置市町は6市町（足利市、西方町、益子町、茂木町、岩舟町、塩谷町）のみである。

ただ、この6市町にも公民館図書室等が設置されており、基本的には県内全域で図書館サービスが受けられる状況になっている。そのため、県立図書館と市町立図書館との役割分担を明確にする必要がある。

(2) 県民ニーズの変化

現在では、単に、本を無料で貸し出す場所、あるいは、学生が勉強するための場所などといった、伝統的な図書館機能の必要性は薄れてきているが、生涯学習への関心・意欲の高まりや高齢化の進展等により、最寄りの公共図書館等の窓口で図書等が受け取れる、図書館間の相互貸借などの広域サービスの利用が増加している。

今後、県立図書館がどのようなサービスを提供していくべきかを明確にする必要がある。

(3) インターネットの普及とデジタル化の進展

出版物やインターネット公開情報等の著しい増加などにより大量の情報が溢れており、利用者は自己に必要な情報を得るため、体系的で信頼性のある情報を求めている。また、資料のデジタル化の増加に伴い、その入手方法も、窓口ばかりでなくインターネット等を通じて求めるようになるなど、県民が図書館に求めるサービスの内容や提供方法にも変化が見られてきている。

(4) 施設を取り巻く課題

現在の県立図書館は、建築後約40年が経過しており、建物の老朽化が進んでいる。また、立地場所が狭隘で傾斜地であることから、駐車場がないことやバリアフリー化への対応が十分でないことなども課題となっている。

県内の市町村立図書館の設置状況

平成22年4月1日現在



既 設 置 館			未 設 置 団 体	
県	2	栃木県(2館)		
市	34(13)	宇都宮市(4館)・栃木市(4館)・佐野市(3館) 鹿沼市(2館1分館)・日光市(3館) 小山市(1館2分館)・真岡市・大田原市(2館) 矢板市・那須塩原市(3館)・さくら市(2館) 那須烏山市(2館)・下野市(3館)	(1)	足利市
町	11(8)	上三川町・市貝町・芳賀町・壬生町・野木町 高根沢町(1館2分館)・那須町・那珂川町(2館)	(5)	西方町・益子町・茂木町 岩舟町・塩谷町
計	47(21)		(6)	

注:()は自治体数

県内の市町村立図書館等の概要

区分	市 町 名	館 名	開館 年月	延床 面積 (㎡)	閲覧 席数 (席)	蔵 書 冊 数 (冊)	1人あ たり蔵 書冊数	協力車によ る図書の間 互貸借	蔵書検索シ ステムへの データ提供
図書館	宇都宮市	宇都宮市立図書館	S56. 7	4,739	232	739,725	2.6	○	○
		宇都宮市立東図書館	H 4. 7	5,872	96	332,930			
		宇都宮市立上河内図書館	H 4. 9	1,000	24	88,932			
		宇都宮市立河内図書館	S61. 9	1,614	122	148,352			
	栃木市	栃木市栃木図書館	S33. 4	2,088	154	279,384	4.1	○	○
		栃木市大平図書館	S60. 6	1,880	143	146,018			
		栃木市都賀図書館	S62. 10	1,006	48	83,807			
		栃木市藤岡図書館	S56. 7	1,010	192	63,426			
	佐野市	佐野市立図書館	S26. 10	3,042	200	238,750	3.3	○	○
		佐野市立田沼図書館	S56. 4	1,305	70	108,209			
		佐野市立葛生図書館	T13. 10	1,178	100	59,438			
	鹿沼市	鹿沼市立図書館	S45. 4	2,789	140	282,048	3.6	○	○
		鹿沼市立図書館東分館	H16. 7	640	42				
		鹿沼市立図書館栗野館	H 2. 11	1,068	60	86,729			
	日光市	日光市立今市図書館	S57. 7	2,055	120	226,768	4.1	○	○
		日光市立日光図書館	S52. 8	1,198	42	85,485			
		日光市立藤原図書館	S58. 10	1,120	52	58,712			
	小山市	小山市立中央図書館	H 5. 4	5,199	227	467,507	2.9	○	○
		小山市立中央図書館小山分館	H 5. 4	928	87				
		小山市立中央図書館間々田分館	H21. 4	92	5				
	真岡市	真岡市立図書館	S57. 7	2,555	236	207,336	2.5	○	○
	大田原市	大田原市立大田原図書館	S56. 4	1,807	126	206,624	3.6	○	○
		大田原市立黒羽図書館	H 7. 11	1,182	42	71,331			
	矢板市	矢板市立図書館	S55. 3	1,232	72	124,623	3.6	○	○
	那須塩原市	那須塩原市西那須野図書館	S54. 4	1,370	57	192,833	3.8	○	○
		那須塩原市黒磯図書館	S62. 10	1,575	83	184,345			
		那須塩原市塩原図書館	H 6. 8	735	24	61,359			
	さくら市	さくら市氏家図書館	S55. 7	1,145	50	110,166	4.5	○	○
		さくら市喜連川図書館	H10. 10	1,795	59	83,827			
	那須烏山市	那須烏山市立南那須図書館	H15. 4	1,765	106	95,652	5.3	○	○
		那須烏山市立烏山図書館	S23. 11	782	102	64,744			
	下野市	下野市立石橋図書館	S63. 9	1,488	36	97,747	4.9	○	○
		下野市立南河内図書館	S62. 4	1,485	100	126,687			
		下野市立国分寺図書館	S59. 7	1,158	60	67,794			
	上三川町	上三川町立図書館	S58. 9	1,600	121	108,249	3.4	○	○
	市貝町	市貝町立図書館	H 3. 11	1,417	31	79,523	6.5	○	○
	芳賀町	芳賀町図書館	H20. 7	963	27	59,303	3.6	○	○
	壬生町	壬生町立図書館	S60. 11	1,503	158	170,533	4.3	○	○
	野木町	野木町立図書館	S63. 10	1,811	90	171,114	6.7	○	○
	高根沢町	高根沢町図書館	H 3. 12	1,587	104	227,921	7.4	○	○
		高根沢町図書館仁井田分館	H 6. 11	236	17				
		高根沢町図書館上高根沢分館	H11. 11	310	21				
	那須町	那須町立図書館	S54. 4	1,115	126	111,084	4.2	○	○
	那珂川町	那珂川町馬頭図書館	S55. 4	777	82	84,810	6.6	○	○
		那珂川町小川図書館	S55. 4	377	18	39,500			
公民館	足利市	(県立足利図書館)	S55. 5	3,000	258	333,868	(2.1)	○	○
	西方町	西方町中央公民館	S49. 10	73	12	18,552	2.8	○	○
	益子町	益子町中央公民館	S63. 6	195	36	32,602	1.3	○	
	茂木町	茂木町公民館(まちかど図書館)	H13. 10	224	16	40,762	2.7	○	
	岩舟町	岩舟町中央公民館	H 7. 4	153	20	24,812	1.3	○	
	塩谷町	塩谷町公民館	S46. 5	64	8	34,128	2.7	○	
		塩谷町船生公民館	S56. 4	47	5				
		塩谷町大宮公民館	S60. 4	63	12				

(注) 平成21年4月1日現在

全国の都道府県立図書館の概要

(平成21年4月1日現在)

都道府県名	都 道 府 県 立 図 書 館				市 区 町 村 立 図 書 館											
	図 書 館 数	在 地 うち 県庁 所	在 地 以外 うち 県庁 所	所 在 地	自治 体数	設置 自治 体数	図 書 館 数	設置率	うち市区立図書館				うち町村立図書館			
									自治 体数	設置 自治 体数	図 書 館 数	設置率	自治 体数	設置 自治 体数	図 書 館 数	設置率
	館 63	館 48	館 15		1, 801	1, 321	館 3, 081	% 73. 35	806	793	館 2, 469	% 98. 39	995	528	館 612	% 53. 07
1 北海道	1		1	江別市	180	100	142	55. 56	35	34	68	97. 14	145	66	74	45. 52
2 青森	1	1			40	22	36	55. 00	10	8	19	80. 00	30	14	17	46. 67
3 岩手	1	1			35	27	46	77. 14	13	13	31	100. 00	22	14	15	63. 64
4 宮城	1	1			36	21	39	58. 33	13	13	29	100. 00	23	8	10	34. 78
5 秋田	2	2			25	18	47	72. 00	13	13	42	100. 00	12	5	5	41. 67
6 山形	1	1			35	21	32	60. 00	13	13	23	100. 00	22	8	9	36. 36
7 福島	1	1			59	28	57	47. 46	13	13	42	100. 00	46	15	15	32. 61
8 茨城	1	1			44	37	56	84. 09	32	31	50	96. 88	12	6	6	50. 00
9 栃木	2	1	1	足利市	30	24	44	80. 00	14	13	30	92. 86	16	11	14	68. 75
10 群馬	1	1			38	22	37	57. 89	12	12	27	100. 00	26	10	10	38. 46
11 埼玉	3	1	2	熊谷市・久喜市	70	65	151	92. 86	40	40	125	100. 00	30	25	26	83. 33
12 千葉	3	1	2	松戸市・旭市	56	40	148	71. 43	36	34	140	94. 44	20	6	8	30. 00
13 東京	3	2	1	立川市	62	57	377	91. 94	49	49	368	100. 00	13	8	9	61. 54
14 神奈川	2	1	1	川崎市	33	29	79	87. 88	19	19	68	100. 00	14	10	11	71. 43
15 新潟	1	1			31	24	70	77. 42	20	20	66	100. 00	11	4	4	36. 36
16 富山	1	1			15	15	54	100. 00	10	10	49	100. 00	5	5	5	100. 00
17 石川	1	1			19	19	47	100. 00	10	10	34	100. 00	9	9	13	100. 00
18 福井	2	1	1	小松市	17	17	34	100. 00	9	9	18	100. 00	8	8	16	100. 00
19 山梨	1	1			28	20	51	71. 43	13	13	38	100. 00	15	7	13	46. 67
20 長野	1	1			80	53	107	66. 25	19	19	72	100. 00	61	34	35	55. 74
21 岐阜	1	1			42	34	69	80. 95	21	21	54	100. 00	21	13	15	61. 90
22 静岡	1	1			38	35	91	92. 11	23	23	79	100. 00	15	12	12	80. 00
23 愛知	1	1			61	50	91	81. 97	35	34	75	97. 14	26	16	16	61. 54
24 三重	1	1			29	21	40	72. 41	14	14	32	100. 00	15	7	8	46. 67
25 滋賀	1	1			26	23	47	88. 46	13	13	36	100. 00	13	10	11	76. 92
26 京都	2	2			26	20	63	76. 92	15	15	58	100. 00	11	5	5	45. 45
27 大阪	2	1	1	東大阪市	43	36	137	83. 72	33	32	133	96. 97	10	4	4	40. 00
28 兵庫	1		1	明石市	41	37	93	90. 24	29	28	84	96. 55	12	9	9	75. 00
29 奈良	1	1			39	24	30	61. 54	12	12	18	100. 00	27	12	12	44. 44
30 和歌山	2	1	1	田辺市	30	18	27	60. 00	9	9	16	100. 00	21	9	11	42. 86
31 鳥取	1	1			19	18	24	94. 74	4	4	7	100. 00	15	14	17	93. 33
32 島根	1	1			21	16	33	76. 19	8	8	22	100. 00	13	8	11	61. 54
33 岡山	1	1			27	24	61	88. 89	15	15	49	100. 00	12	9	12	75. 00
34 広島	1	1			23	22	82	95. 65	14	14	69	100. 00	9	8	13	88. 89
35 山口	1	1			20	18	48	90. 00	13	13	40	100. 00	7	5	8	71. 43
36 徳島	1	1			24	19	28	79. 17	8	8	16	100. 00	16	11	12	68. 75
37 香川	1	1			17	12	26	70. 59	8	8	22	100. 00	9	4	4	44. 44
38 愛媛	1	1			20	16	41	80. 00	11	11	36	100. 00	9	5	5	55. 56
39 高知	1	1			34	21	33	61. 76	11	11	22	100. 00	23	10	11	43. 48
40 福岡	1	1			66	49	105	74. 24	28	26	75	92. 86	38	23	30	60. 53
41 佐賀	1	1			20	16	25	80. 00	10	10	19	100. 00	10	6	6	60. 00
42 長崎	1	1			23	19	36	82. 61	13	13	26	100. 00	10	6	10	60. 00
43 熊本	1	1			47	27	47	57. 45	14	14	31	100. 00	33	13	16	39. 39
44 大分	1	1			18	16	29	88. 89	14	14	27	100. 00	4	2	2	50. 00
45 宮崎	1	1			28	18	24	64. 29	9	9	14	100. 00	19	9	10	47. 37
46 鹿児島	2	1	1	奄美市	45	31	63	68. 89	18	17	47	94. 44	27	14	16	51. 85
47 沖縄	3	1	2	宮古島市・石垣市	41	22	34	53. 66	11	11	23	100. 00	30	11	11	36. 67

県立図書館特有の役割・機能

県立図書館の役割・機能

項 目	主 な 内 容
図書館サービス	地域的、直接的なサービスの提供
	広域的、間接的なサービスの提供
資料の収集、提供	各分野の資料を基本的なものから専門的なものまで幅広く収集
	専門書等資料価値の高いものを中心に収集
レファレンスサービス	市民の要求に応じた資料・情報の提供
	市町立図書館の要望に応じた資料・情報提供
図書館サービスに必要な施設・設備の整備	開架、閲覧、情報機器、視聴覚機器等の整備
	資料の永年保存収蔵庫、研修等施設の整備
利用者に応じたサービス	・成人（就職、能力開発のための資料等） ・児童・青少年（児童書、読み聞かせ等） ・高齢者（大活字本、拡大読書機等） ・外国人（外国語資料等）等の提供
多様な学習機会の提供	読書会の開催、講座等学習機会の提供
ボランティアの養成	ボランティア養成研修の実施
広報及び情報公開	情報拠点としての広報活動、情報公開の実施
市町立図書館等への支援	運営相談、職員研修の実施等
市町立図書館等とのネットワーク	相互貸借、協力車の運行、栃木県総合目録検索システムの運用等
図書館間の連携・調整	国会図書館、大学図書館等の連携・協力
調査・研究開発	効率的な資料提供等に関する調査・研究開発

※太枠以外は市町立図書館と共通の業務

県立図書館特有の役割・機能

特有の役割・機能のポイント

○補 完

……市町立図書館等を補完する広域的・専門的サービスの提供

○連 携

……市町立図書館等との連携による全県一体となったサービスの提供

○支 援

……市町立図書館の機能向上に向けた支援

《市町立図書館との主な相違点》

○収集方針の違いによる蔵書構成

【県立】 調査研究に使用するような専門書や市町立図書館からの購入依頼図書を収集している。
県内全域の地域資料を網羅的に収集するとともに、新聞、逐次刊行物まで幅広く収集している。
（市町立） ベストセラーや実用書等利用率の高い本、また、当該市町の地域資料を中心に収集している。

○図書の保存方法

【県立】 新聞、逐次刊行物を含め原則的に永年保存する。
（市町立） 利用率の高い小説、趣味の本等については、一定期間の保存で廃棄している。

○レファレンスサービス

【県立】 専門的な内容や市町立図書館等からの相談に対し、所蔵資料等を基に調査し、資料・情報の提供を行っている。
（市町立） 身近な情報拠点とし、市民の要求や地域の課題について、調査回答している。

県立図書館への期待

県立図書館に対する市町立図書館の期待（過去の研修会等アンケートから）

- **図書館職員と情報（意見）交換する場の提供**
.....他の図書館等職員と情報交換する場がない。
県が主催する研修会等は意見が聞ける場なので、その機会を確保してほしい。
- **レファレンス等業務上のレベルアップを目的とする研修の実施**
.....市町村レベルの図書館は規模が小さく、職員数も少ないため職員の技量等のレベルアップを図る研修会を開催することが極めて難しい。このため、県に主催してもらえれば同じ問題を抱えている多くの市町立図書館職員が受講することができる。
- **国などの図書館の動きや図書館業務に必要な最新情報の提供**
.....国や図書館協会等の大まかな動きは情報として入ってくるが、詳細な情報内容はなかなか掌握が困難であり、県立図書館が把握している情報を市町レベルでもわかるように説明していただきたい。
- **図書館の運営やレファレンスのアドバイス**
.....市町立図書館などでは開館から時間が経過していない所も多く、運営のノウハウ等適切なアドバイスをしてほしい。
- **県の実施した調査のデータ提供**
.....様々な調査等で県が集積したデータ等は県内における市町立図書館の位置づけなど運営に活かしたいので提供
願いたい。

市町立図書館との共通業務での相違点

【蔵書の特徴】

◆「栃木県立図書館資料収集方針」（平成11年8月27日制定）

（基本方針）市町立図書館等を支援する中核図書館としての役割を果たし、県民のあらゆる資料要求に応えるため、全分野にわたる専門的資料

を中心に収集し、本県に関する資料や本県に影響を与えた資料は、網羅的に収集する。

■県立図書館の所蔵資料の例

- ①調査研究に必要な資料 …… 『日本暦日総覧 具注暦篇』（全20巻 本の友社）・・・吉凶判断のための様々な暦注が記載された日本の朝廷が作成した暦の複製。古代前期から中世後期の暦
- ②全集、叢書等の継続資料 …… 『日本大蔵経 改訂増補』（全100巻 鈴木学術財団）・・・所収典籍760部。大正3年日本大蔵経編纂会著の日本大蔵経から継続収集
- ③地域資料
 - ・郷土資料 『真名子村郷土誌』 『河内郡村誌材料』 等
 - ・栃木県刊行行政資料 『県勢白書』（S36～）
- ④逐次刊行物
 - ・マイクロフィルム化された新聞 『二六新報』、『自由燈』、『萬朝報』（明治期の新聞）、『下野新聞』（創刊号から所蔵）等
 - ・官報及び栃木県公報
- ⑤視聴覚資料
 - ・クラシック音楽のLPレコードを1950年代から所蔵（ジャズコレクション（滝澤コレクション）等）（H21年度現在 39,528点）
 - ・楽譜（『バッハ/無伴奏ヴァイオリンパルティータ第2番二短調BWV1004 等）（H21年度現在 1,859点）
- ⑥デジタル化資料（461点の一部）
 - 『田中正造翁書請願書草稿』（栃木県に関する貴重書） 『達磨』（前田雀郎の直筆原稿） 『足尾銅山庚申山繁栄之図』（地図資料）等

◆「市町村からの要請で購入した資料の例」（平成22年度、平成23年度）

（要請の受入範囲）

市町立図書館等の利用者からリクエストがあった図書で、収集方針等の理由で図書選定を見送ったもので、県内の市町立図書館等で所蔵していないもの。容易に入手できるもの（ベストセラー、一般教養書、娯楽書等）は除く。

- ・宇都宮市立図書館からの依頼 『遣唐使と古代日本の対外政策』 『日本の航空100年』 『我妻・有泉コンメンタール民法』 等
- ・宇都宮市立東図書館からの依頼 『伊藤若冲大全』 『大平正芳全著作集』 『独歩一辻清明の宇宙』 『IFRS経理規程の実務マニュアル』 等
- ・小山市立中央図書館からの依頼 『西洋古典学事典』 『歴史としての冷戦』 等
- ・那須塩原市黒磯図書館からの依頼 『親鸞の生涯と思想』 『長宗我部氏の検地と権力構造』 『万葉植物文化誌』 等

【レファレンスの特徴】・・・「市町立図書館からの照会への回答例」

◆市町立図書館からのレファレンス相談は、市町立図書館の調査では回答できないものについて、照会がなされるもので、県立図書館で所蔵する資料などを基に調査し、回答(支援)を行っている。

■江戸期の人物、系譜等調査する基本資料である『寛政重修諸家譜 第5巻』を使って回答した例

○江戸町奉行 島田利正の五男、島田重三郎(権三郎利直か)の生年月日を知りたい。名前は重三郎か権三郎なのかどちらが正しいのか。

回答:『寛政重修諸家譜 第5巻』に利直の名が記載されています。ただ、生年月日を記した資料はこちらを含め、見つかりませんでした。

また、名は「権三郎」とあります。『徳田浩淳著作選集2』に「島田重三郎」の名がありますが、利直と同一人物か特定する資料はありません。

■県立図書館で収集に力を入れている調査に必要な参考図書を使って回答した例

○魯迅の「社戯」という作品を読みたい。

回答:「社戯」というタイトルは、中国での原題となります。

『魯迅事典』(藤井省三/著 三省堂 2002)を調べると、P76から「社戯」は「村芝居」(邦訳)の原題であることがわかりました。

『世界文学総覧シリーズ5 世界文学個人全集・作品名総覧』で「村芝居」を調べると、収録巻を確認することができました。

『魯迅全集2』(魯迅/著 学習研究所1996)に「村芝居」というタイトルで収録されております。

■県内では県立図書館のみで所蔵している『平将門伝説一覧』を使って回答した例

○御門神社(将門明神又は将門権現ともいわれていた)(現、岩舟町静3591)に別当本山修験(天台宗系の山伏寺院)将門院があった。

将門院の本尊や何でも分かりうる限りのことを知りたい。

回答:『平将門伝説一覧』の中に、御門神社について”旧名 将門院”とあります。この出典は『角川日本地名大辞典9 栃木県』とのことです。

御門神社については、『栃木県神社誌』で、主祭神や例祭等についての記述を確認できました。

【資料保存方針の特徴】

○県立図書館

・永年保存

市町立図書館への資料提供や資料の紹介といった役割を果たすため、資料を保存する。

所蔵資料の充実に努め、除籍は最小限にとどめる。資料は原則として永久に保存して、将来の県民の利用に供する。

○市町立図書館

・永年保存ではない

常に新鮮で適切な資料構成を維持し、充実させるために資料の更新及び除籍を行う。

書庫スペースの確保が難しいことに加え、資料の多くは開架している。